

せいざせき むつしゅうげせんぐんとうにむらそくりょうのひ  
星座石・陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑

指定種別：1)県指定文化財

2)日本天文遺産

指定日：1)昭和60年12月27日

2)令和8年3月5日

所在地：釜石市唐丹町字大曾根

制作年：文化11(1614)年

寸法：星座石 長径70cm 短径44cm  
厚さ18cm

測量之碑 縦133cm 上部横76cm  
下部横71cm 奥行8cm

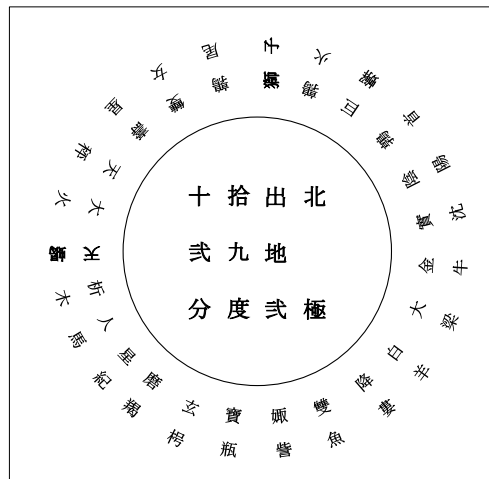
銘文：下記参照



【星座石】

星座石は、葛西昌丕が西洋の天文学によって「地球の微動」説を知り、それを確かめるために星座を石に刻み、その確認を後世の人に託したもので、異同を確かめるための資料として作られたものです。

不正形楕円形の石の中央に、伊能忠敬が天測した北緯39度12分の数値が記され、そのまわりには黄道十二宮と呼ばれる星座名と十二次といわれる季節ごとの太陽の位置を示す天球分割法が交互に刻まれています。「日時計石」とも呼ばれ、当時の地方における天文学の普及を知るうえで貴重な資料です。現在は「測量之碑」とともに同一場所に保存されています。



【陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑】

享和元(1801)年、江戸の天文学者伊能忠敬が、三陸沿岸測量のため、唐丹村を訪れて引縄測量を実施しました。陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑は、その13年後の文化11(1814)年、唐丹村の天文学者である葛西昌丕が、その偉業を記念するとともに、昌丕が知り得た西洋の学説「地球微動」の正否を後世の者に確かめてほしいというメッセージを刻み、建立したものです。

この碑は伊能忠敬の生存中に、その業績に触れた唯一の碑で、西洋の知識が地方にまで浸透していることを証明する貴重な資料です。



天蝸  
唐丹 仙郡 州氣 陸奥  
今密也慶長之初歐邏巴之商客船載  
新製測器我方補之益精測量之法於  
是乎始明矣竊以天道幽玄不可究知  
若拋西洋之說則復不有所謂地球微  
動者乎請願後世諸彦或知其異同矣  
文化十一年甲戌秋月  
葛西昌丕謹識